



坂小っ子だより（第51号）

五ヶ瀬町立坂本小学校H27年度, 3号

平成27年 5月13日(水)

西臼杵郡五ヶ瀬町大字三ヶ所3446番地

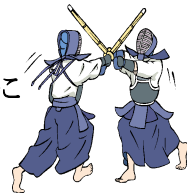
Tel 82-0588 FAX 82-0589 (文責 山下)

「いつもどおり（例年どおり）から一步前進！」

校長 山下 多門

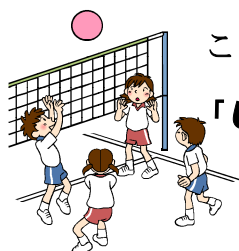
ある日、流れる涙の訳を聞きました。

「どうして泣いているの?」「悔しくて涙が出ます。」スポーツ少年団に所属し、試合に負けてしまった児童が震える声で答えました。



「悔し涙」… 今の子どもたちはどれくらい流した経験があるのでしょうか。この経験

こそが次の成長をもたらす大きな糧となります。



「じゃあ、今までと同じことをしては、まだ同じ結果しか出ないよね。

そこで、何をどのように変えていけばよいのだろう。」と問うて、そ

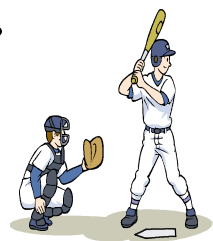
の子の変容を楽しみに観ています。

教えることも大事ですが、それに気づかせてやることはもっと大切であると考えます。

「準優勝」…。あと一步で優勝です。しかし、そのあと一步がとても容易ではありません。それを自覚させることは先輩である私たち大人の大きな役目です。

勝ちにこだわり過ぎることは、よくありませんが、勝つことでも

子どもたちは大きく成長します。



「何を、どのように、どの程度頑張れば良い結果に結びつくか」という

ことがわかると、大人になり社会に出て、いろいろな場面に応用できる力がつくと考えます。試行錯誤の末、一步踏み出せる人になってほしいです。



私たち教師の世界でも、諸教育活動の反省を基に課題を分析し、それ

をどのように、どの程度努力していけば改善し、一人一人の子どもたち

に力をつけていけるのかという話し合いを行い実践します。個人の力が高まれば自ずと学級（学年）全体、ひいては学校全体の成長につながります。

また、教育振興会（P T A）活動においても同様です。先日、常任委員会でのあいさつの中でも「いつもどおりは、停滞あるいは後退です。」と述べました。

すると、「校長先生、担当で実状を考え、やり方を変えて、～してみてもどうでだろうかと話し合いました。いかがですか？」と役員さんから相談を受けました。「まずはやってみましょう。それでうまくいかなければ、また考えればよいと思います。」と答えました。



一歩踏み出された教育振興会（P T A）の活動、楽しみです。今後もそういう取組が増えてくることを大いに期待しています。

元気の出る言葉、輝き言葉

『人は何度やりそこなっても「もういっぺん」の

勇気を失わなければ、必ずものになる』



これはかの有名な松下幸之助さんの言葉です。毎週一つ、読んで元気が出る、輝いて



いる言葉を黒板に書き始めて、数ヶ月が経ちました。「校長先生、言葉の意味がわかりません。」「わからない言葉は辞書を引いてごらんなさいよ。」というやりとりも初めの頃にありましたが、最近では、「なるほど。そういう意味だったのか。」

【今週の元気の出る言葉】という感想も聞かれます。また、上級生に「どんな意味？」と尋ねる下級生の姿、「これはね、…とよ。」という場面も見られます。また、「毎週楽しみにしています。子どもたち以上に自分が励まされています。」と先生方からのコメントも寄せられました。（何を隠そう私自身も元気を出させてもらっている言葉たちです）

先日の坂本城址春祭りや地域の方との会話の中でも、

「校長先生、地域に届けられる学校だより楽しみに読んでいます。」

「ありがとうございます。また、頑張ります。」

私にとっての特に元気の出る言葉でございました。



21日（木）春の遠足は、海岸に出かける計画を立てています。

